

「アジア医師連絡協議会 (AMDA)」本部・岡山市の小児科医で昨秋、他界した篠原明さん。当時(三)の晩年の活動は自らの病氣、リンパ腫(しゅ)との闘いでもあった。

短い退院期間中は勤め先の病院などに募金箱を置き、自費で中国、インド、タイなどを精力的に視察。AMD Aの活動に対する理解を求めて、大学で講演したこともある。

共に計画を練ったAMD

「魂と一緒に帰りたい」

発病した平成六年秋から二年間に計四回入院。トータルすると入院期間は十四カ月以上にも。このため、ネパールに続くスーダンへの派遣は断念に追い込まれた。

七年秋に神戸大で行われた篠原さんの講演を聞いた同大学の都丸潤子助教授は「講演後も学生らが離さなほどの人気でした」と話した。

「ネパールのブトワルに



神戸大学での留学を終えて今月下旬、ネパールに帰るポカレル医師。「篠原さんの魂と一緒に帰りたい」という

原さんだったが、果たせな
いまま逝った。今月末に帰
国予定のポカレルさんは遺
族から贈られた遺品の腕時
計を手にも、「人生で彼の死
ほど悲しかったことはい
ない。ネパールには彼の魂と
一緒に帰りたいと思ってい
ます」としみじみと語っ
た。

基金に関する問い合わせ
はAMDA(☎086・2
84・7730)へ。協力は
郵便振替〇二五〇一
一四〇七〇九(AMDA篠
原基金)

(社会部 吉村剛史)

当初はまったくの夢だった計画はマスコミや企業などの協力で、八年秋に現地での測量までこぎつけた。その後、建築家の安藤忠雄さんが無償で設計を名乗り「病気がなおったらネパールへ行く」。そう病床で出るなどして、来月着工のポカレルさんと約束した篠